

## 目次

序にかえて——井上幸治  
はしがき

### I 歴史と人間——近代化の問題——井出孫六……三

一、犬も歩けば……五

一 講演によせて 5

二 直木賞のこと 6

三 職業病 8

二、流れの中で……一

一 ユー・シャル・ダイ 11

二 昭和二十年八月十五日 13

三 玉音放送 15

四 十四歳の転向 19

五 凌辱感——小説家への原点 22

六 ひとつの時代が終わったと思ったが……

三、再び疑問……………	二五
一 維新の外交と現在の外交	25
二 旧制中学在学中	27
三 父親が語った秩父騒動	30
四 なぜ山奥に自由民権運動が……	33
五 実際に山を越えてみた	35
四、近代の把え直し……………	三七
一 当時のリアルな距離	37
二 中央志向性と地図	39
三 多様性の先細り	40
四 電信柱をぶちくじく	41
五 権力と電信網	45
六 国の非行と峠の廃道	49

## II

### 地下水の流れを阻むもの——秩父事件の現代的意味——

森山軍治郎……………五三

一、近代日本と北海道……………	五五
-----------------	----

一 「軍治郎」という名前	55
二 わが故郷・閉山の町	58
三 わが父母・流民の歴史	60
四 開拓農民の実態	63
五 幻のフロンティア・スピリット	67
六 抵抗の青年開拓者	70
二、貧民の子供史……………	七四
一 貧民のたくましさ	74
二 美意識の誕生	78
三 知識人文化との出会い	81
三、秩父事件とフランス革命……………	八五
一 困民党とサン・キュロット	85
二 民衆道徳と抵抗思想	89
三 平等思想の深化	92
四、モダニズムと民衆……………	九六
一 パリの田舎者	96
二 民衆の欧米憧憬	99

三	フランス民衆の実像	102
四	民衆の「個」と「共同体」	105
五	共同体の自己変革	111
一	秩父困民党と共同体	111

### III

#### 民衆思想史とは何か——共同体とナショナリズム——

色川大吉……一七七

一	現代と秩父事件	119
一	農民一揆の世界と秩父事件	119
二	秩父事件の提起した問題	125
三	底辺での思想の闘い	127
四	風土と共同体と……	133
五	民衆の基本的意識	136
二	通俗道德の二つの方向性	142
一	解放への回路と内縛の論理	142
三	民衆ナショナリズムと国権	151
一	「檀山節考」——幻想と怨念の果てに	151

二	「苦海浄土」——絶対への構築	155
三	「大和信仰」——もうひとつのナショナリズム	157
四	日本における「個」の成立	161
一	てき屋・その棄民の系譜	161
二	「個」ゆえに	164
三	共同体からの個	166
五	現代の中の伝統	173
一	三里塚から	169
二	今一度の近代	173

あとがき……一七七